



『「地域アプローチ」による少子化対策の推進に向けて』

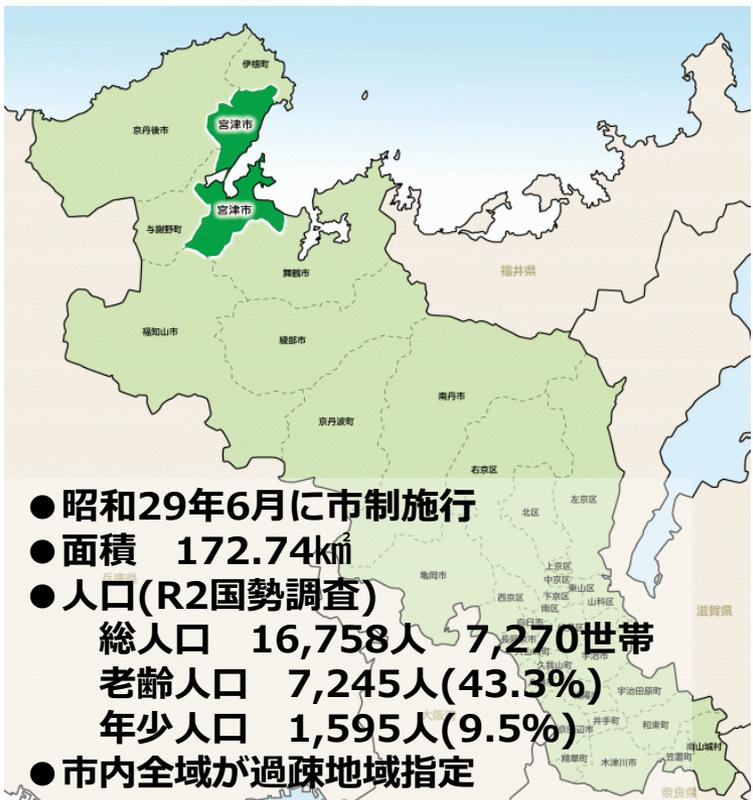
地方公共団体・オンライン意見交換会

宮津市における取組の進め方について

令和4年8月9日

日本三景・天橋立があるまち
宮津市

宮津市の概況



●産業

【観光】

北近畿の観光拠点として、年間約300万人の観光客が訪れる。天橋立をはじめとした既存の観光資源に加え、歴史を活かした滞在型観光への転換を進めている。

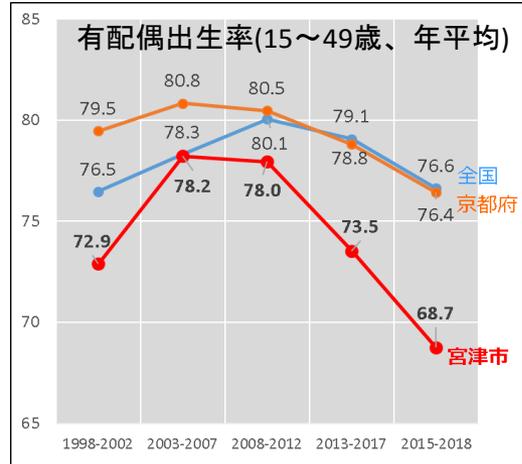
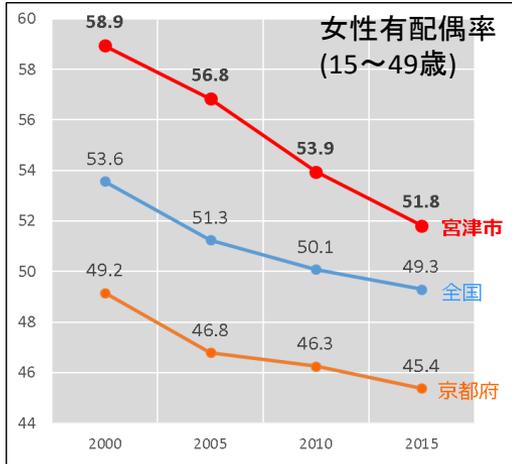
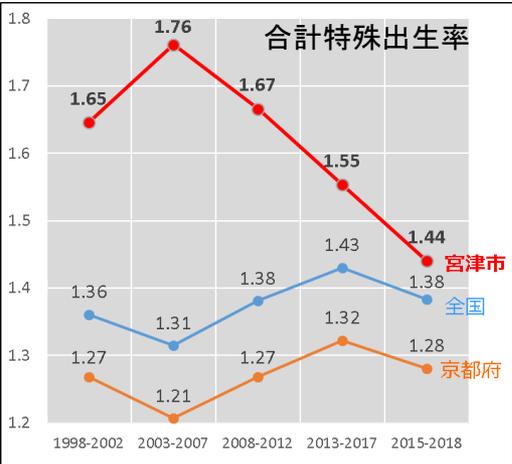
- ・観光入込客数 302.5万人(R) (H26 : 273万人)
- ・外国人観光客宿泊数 5.4万人(R) (H26 : 1.9万人)

【農林水産業】

水稻を主体として、花き、山の芋などの地域特産物
 定置網漁業を中心とした沿岸漁業
 近年は、新たな特産品(オリーブ、乾燥なまこ等)に取り組む。

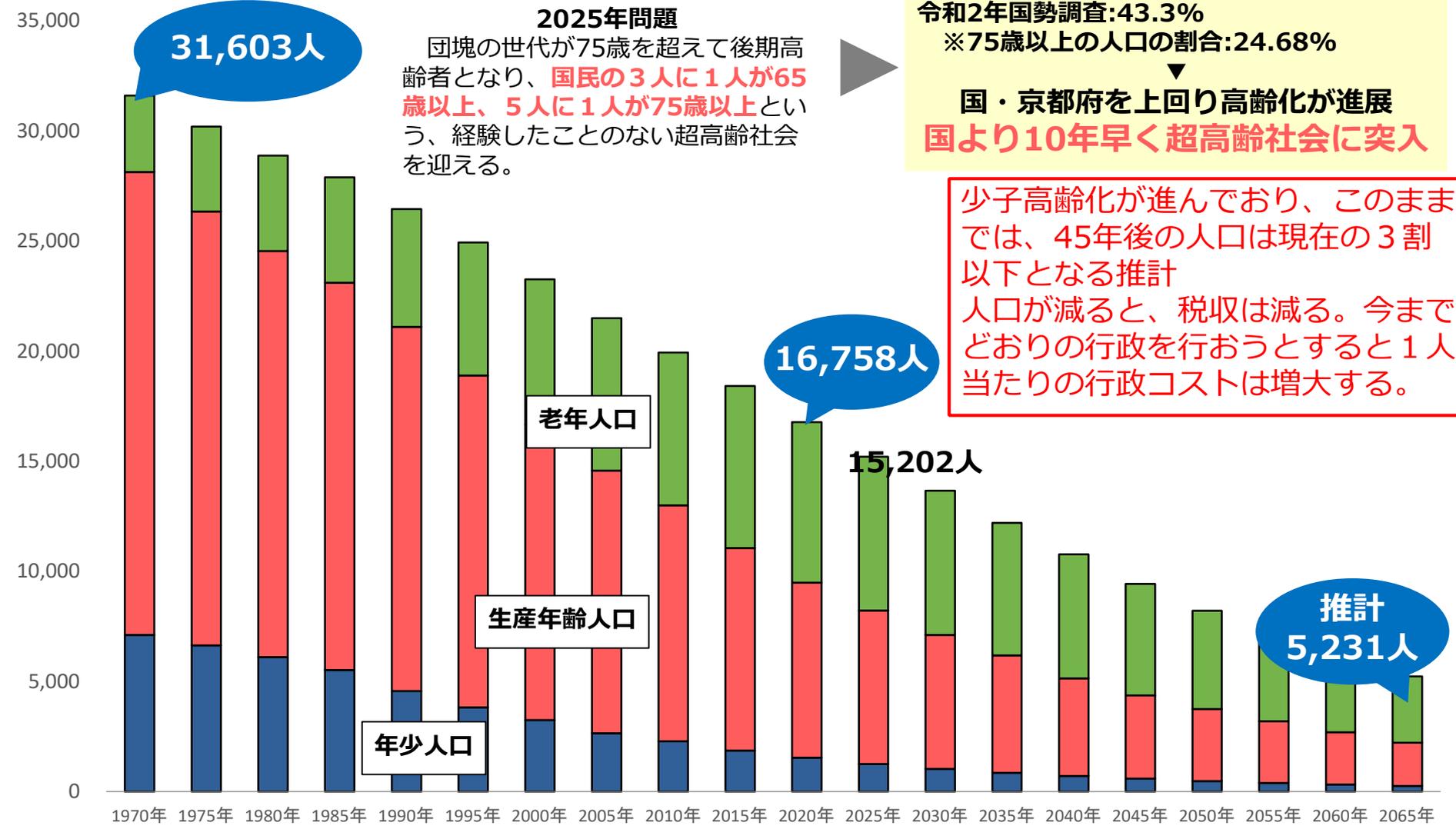
【商工業】

ニッケル製造、メリヤス生地製造などの工場や海産物加工



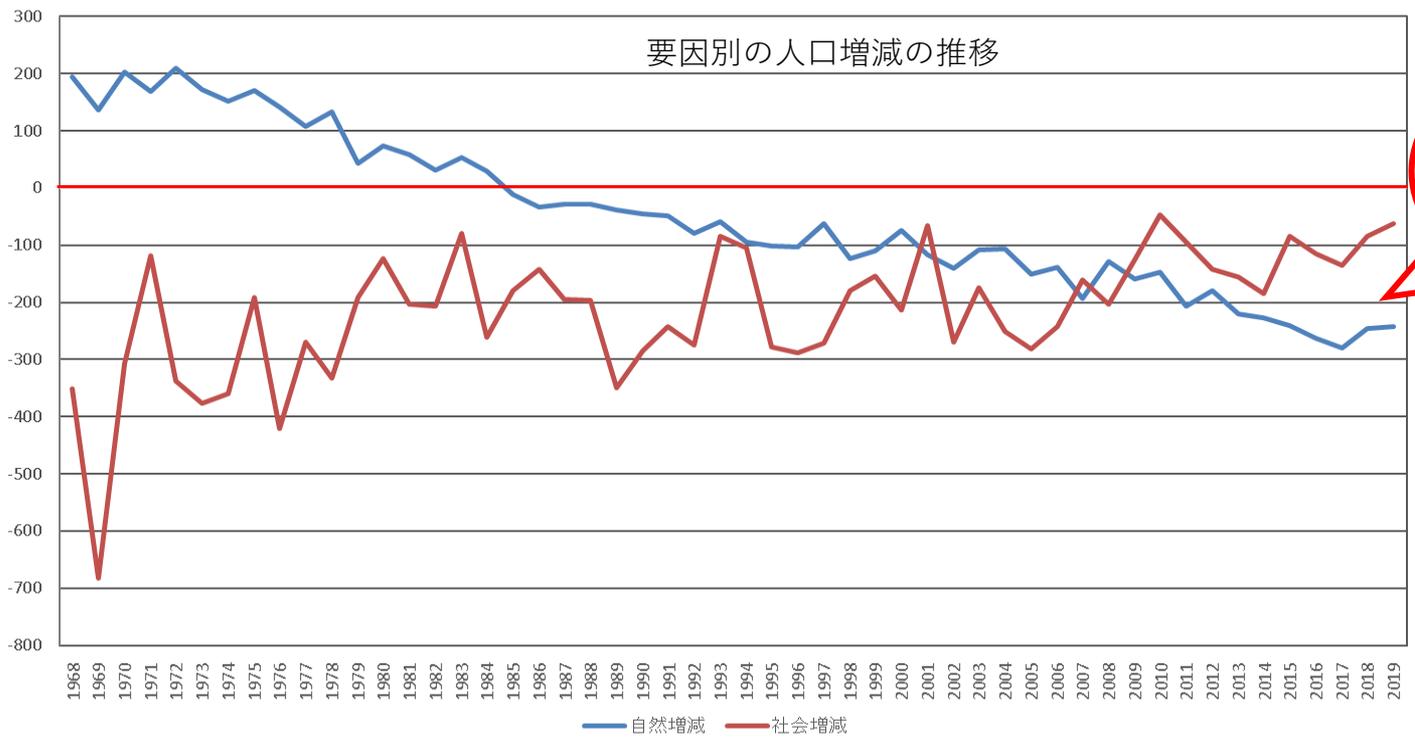
宮津市の現況

市制施行直後の昭和30年（1955年）は36,200人



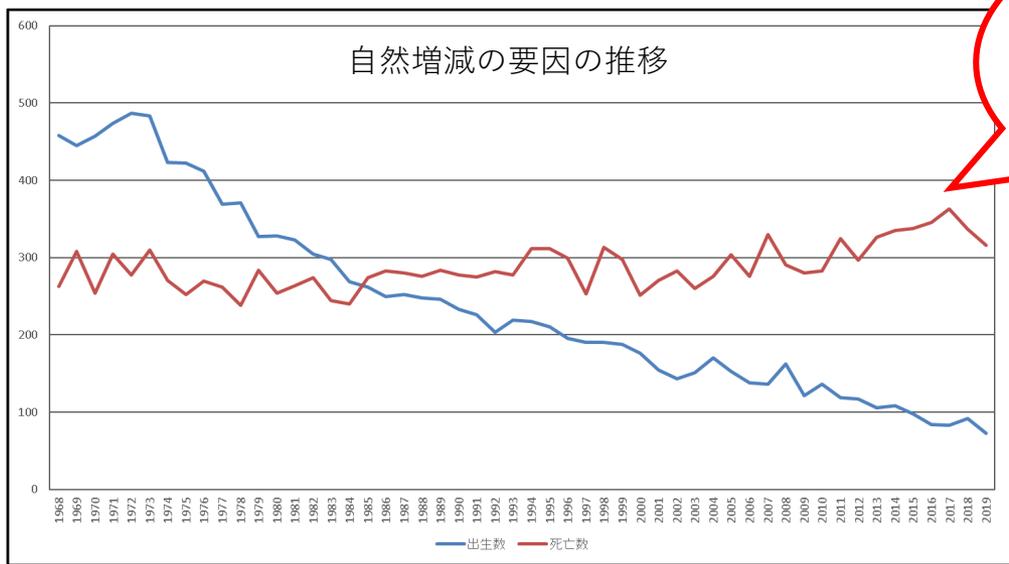
少子高齢化が進んでおり、このままでは、45年後の人口は現在の3割以下となる推計
 人口が減ると、税収は減る。今までどおりの行政を行おうとすると1人当たりの行政コストは増大する。

要因別の人口増減の推移



近年の人口減少は、
自然減が
大きく影響！

自然増減の要因の推移



自然減の要因は、
出生数の減少が
大きく影響！

令和3年度の調査研究事業に参加したのはなぜ？

現状

厳しい
財政状況

人口減少



地域経済の低迷

職員数の
減少

今後も人口増加は望めない

このような中、第7次総合計画(R3~R12)に定める

重点プロジェクト「若者が住みたいまちづくりプロジェクト」を実施し、
若者が住みやすく、子育てしやすい環境を作るには

地域の強みや要因、課題の分析を行い、
効果的な対応策を実施していくことが重要！

そのため、

有識者の助言を得ながら客観的・主観的な分析を行い、
対応策を検討するため、内閣官房モデル事業を活用！

宮津市の子育てに関する強みは？

① ショッピングセンター内にワンストップ相談体制を整備！

- ・ 妊娠期から中学生まで「子どもの福祉・健康・教育」をワンストップで相談対応可能な体制を整備
- ・ 行政窓口と子育て支援センター「にっこりあ」、図書館を1カ所に設置



子育て支援センターにっこりあ

② 幼児教育・保育の充実

- ・ 幼稚園給食の開始、保育料軽減、保育コーディネーター配置、病児・病後児保育施設の運営、円滑な就学に向けた保幼小連携等
- ・ SNS等を活用した情報発信、子育て世代の交流促進、オンライン子育て相談の実施等

③ 学校教育の充実

- ・ 普通教室へのエアコン整備率100%、GIGAスクール、小中一貫教育の推進、中学校給食開始等
- ・ コミュニティ・スクールで地域と学校が連携・協働し、自然や歴史、生活文化等を題材とした宮津ならではの地域学校協働活動を展開

④ 放課後児童クラブの充実

- ・ 全放課後児童クラブを学校敷地内開設・開設時間延長等

⑤ 豊富な地域資源

- ・ 市内に子育て支援に取り組む団体が複数ある。
- ・ アンケートでも、9割近くが、子育てに関して宮津の良いところは「海、山、川などの自然が豊富」と回答
- ・ 各地区に祭や伝統文化等が伝わり、子ども達も参加



強みを活かした少子化対策の実施が重要！

調査研究事業の流れ

① 少子化の要因に関するわがまちの特徴とその要因仮説を整理

少子化の要因		わがまちの特徴 客観分析：県・全国値との比較／経年比較	特徴の 要因仮説
転出入	若年層(15～24歳)		
	子育て世代(20～49歳)		
有配偶率			
有配偶出生率	合計1人目	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 10px; border-radius: 15px; display: inline-block;"> 国勢調査・人口動態調査を基に、表を整理 </div>	
	特殊2人目		
	出生率3人		
	／以上		

② 要因仮説の裏付けとなる統計データ等の整理・分析(客観分析)

③ 子育て当事者の意見を聞く(主観分析)

④ ②と③の結果をまとめ、少子化の要因を整理し、見える化

⑤ ④を基に、新たな施策の立案や既存施策の見直しを実施

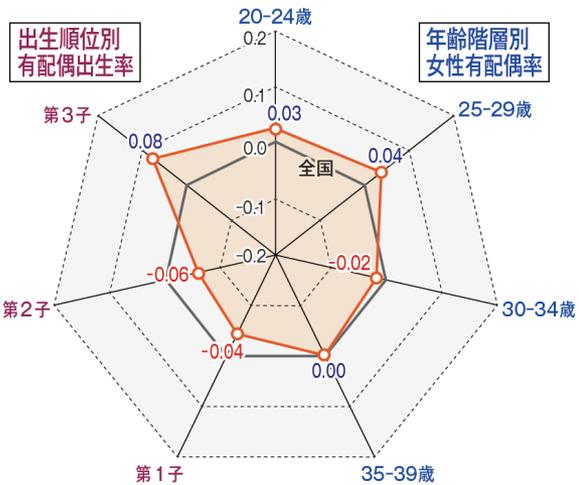
各段階で有識者
や京都府から助
言

調査研究事業で取り組んだこと①

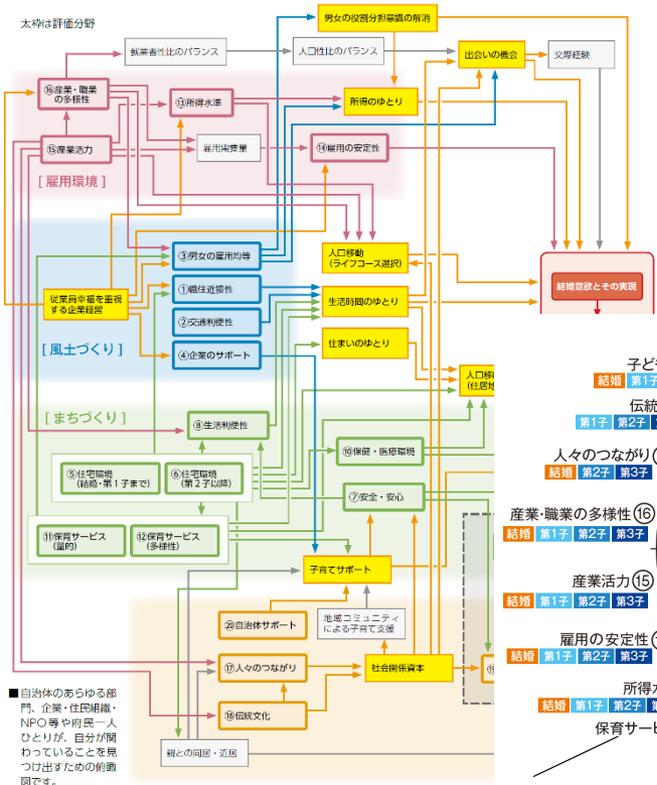
- ① 少子化の要因に関するわがまちの特徴とその要因仮説を整理
- ② 要因仮説の裏付けとなる統計データ等の整理・分析(客観分析)

・京都府作成の『地域子育て環境「見える化」ツールver.1』を活用し、出生構造を分析

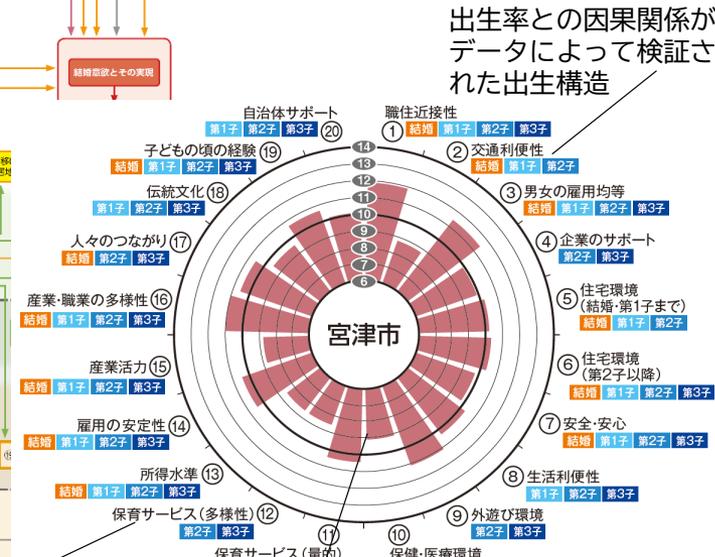
出生構造レーダーチャート
(2015-2018年、全国 = 0)



子育て環境因果フロー (例示)



子育て環境レーダーチャート
評価分野のスコア、市町村平均 = 10



軸は出生率に影響を及ぼす子育て環境

子育て環境の定量化

・国勢調査や住民基本台帳人口移動報告、転入・転出へのアンケート結果(宮津市独自)等を分析

調査項目	調査データ	分かったこと
近年の社会増減(転入者数－転出者数)の推移(20～39歳)	住民基本台帳人口移動報告 ※H30～外国人含む	舞鶴市や与謝野町、京丹後市への転出が多い傾向
年齢階級別人口移動の推移	国勢調査	15～19歳→20～24歳は転出が多い 20～24歳→25～29歳は転入が多い 男性と比べて女性は、20～24歳→25～29歳の転入が少ない。
20～39歳人口の男女比	国勢調査	平成12年以降は、女性より男性人口が多くなっている。R2で女性は男性の88%
49歳以下女性の社会増減	住民基本台帳人口移動報告 ※H30～外国人含む	転出が転入を上回っている。
女性の転入・転出のきっかけ(10代～40代)	転入・転出者アンケート (2月～4月)	転入：仕事や結婚・独立が多い。 転出：仕事や進学、結婚・独立が多い。
世帯所得額	(株)ゼンレンジオインテリジェンス「個人所得指標」	近隣市町より低い。
市街地の地価	地価公示・地価調査	近隣市町より高い。

調査研究事業で取り組んだこと②

③ 子育て当事者の意見を聞く(主観分析)

○子育て支援センター「にっこりあ」を利用する子育てママと市長の座談会

日時 令和3年7月28日 10:30~11:20

場所 子育て支援センター「にっこりあ」

参加者 参加者19組(宮津市10組、他市町9組)

内容 子育てに関する悩みや要望、地域に望むこと等について意見交換
意見(一部)



◆日頃の悩み、要望等

- ・こどもを連れて出かけられるところを探している。音楽や映画など楽しめるところがあったら。外でも楽しめるところがあるといいな。
- ・子どもを連れての外出が難しい。子どもを遊ばせながら食べれるところがあればいいな。
- ・ベビーカー、チャイルドシートの貸し出しや補助があればいいな。
- ・上の子の時にはあったが、ゴミ袋がもらえなくなった。またもらえるようにしてほしい。

◆母同士のつながり、つながりやすくするためには？

- ・子どもが3ヶ月の頃に転入。近所の方が散歩していると声をかけてくれる。近所の同世代の人が声をかけてくれて、子育てサロンやにっこりあを紹介してもらった。
- ・コロナで難しいが、祭りとか近所の人とふれあう機会があれば。
- ・「ちえのわ」みたいな地域の民生委員が関わってくれるような場があればいいな。
- ・ママ向けの行事がない。何かあればママ同士のつながりができるかな。

◆地域全体で子育てにやさしいまちづくり

- ・お店にベビーチェアやこどもが遊べるおもちゃ、本、トイレの補助便座があるといい。
- ・子どもを連れていく店がない。周りの人に迷惑がかからないように個室があるといいな。
- ・にっこりあで預かってもらってゆっくり買い物ができるとうれしい。
- ・あらかじめ子ども歓迎の施設かどうかわかれば入りやすい。

○子育てサークル等を開催する子育てママを対象にワークショップを開催(3回)

○参加者

- ・子育て当事者 子育てサークル等主催ママ 4人
子育て支援センターにっこりあ職員 1人
外国人ママ 2人(第3回のみ)
- ・コーディネーター 2人
- ・市職員(社会福祉課・企画課) 4人



第1回 令和3年7月21日(水) 10:00~12:00

- ・子育て当事者が考える少子化の要因は? 少子化対策は?
→若い人が少ない、土地が高い、煩わしさ、高齢出産、出会いが少ない等
- ・子育てサークル・支援活動を行っている保護者同士の連携、組織化
→文化活動や芸術に触れ合う機会が少ない、地域との関りを土台に子育て活動をしている等

第2回 令和3年9月22日(水) 10:30~12:30

- ・各団体の活動の共有
- ・子育てと地域との関わり方について
→お金や時間をかけず集まれる・しゃべれる機会を作りたい、子育て中のママが持っているスキルを様々な場面で活用すべき、父親の行事参加等

第3回 令和4年1月17日(月) 10:30~12:35

- ・外国人ママの感じていること
→日本語が分からない中での出産や健診に困った、日本語を学べる場がほしい等
- ・ママが幸せを感じる場所とは? あったらいいなと思うこととは?
→子連れでお茶ができる場所、ちょっと子どもと離れる時間、ちょっと働ける場等

◆ワークショップでの一コマ！

第2回ワークショップで出た意見
今後の子育て支援を考えるのに重要なポイント！ **ママが幸せを感じる場所はどこ？**

本質的なデータに迫ることも大事では・・・？

第3回までに市が考える「ママが幸福感を感じるであろうと思う場所」を
リストアップ！

- ・市立公園54箇所、カフェ32箇所、ヘアーサロン34箇所、エステサロンなど
- ※インターネット等でカテゴリーに該当するものを**網羅的にリスト化**
- ※実際に子育てママ達がどう感じているかは度外視

第3回でリストを基にママの考えを聞く！
意見交換や協議のネタになれば

第3回ワークショップで出た意見

- ・カフェにスナック形態やタバコが吸えるお店が入っている。
- ・子どもと行ったことはない。
- ・宮津では、子どもを連れてお茶をしに行くという文化がないように感じる。
- ・子どもがぐずると迷惑になると思うと、イベントも参加しづらい。 …などなど

仮説

あえて、カフェなどには行かない？

仮説

利用できるお店が知られていない？

仮説

利用しやすい環境になっていない？

迷惑に思う人がいる？

仮説をたて、施策につなげていければ・・・

○子育て世帯(18歳以下の子どもがいる世帯)を対象としたアンケートの実施

対象者 18歳以下の子どもがいる世帯

調査方法 インターネットアンケートを活用し、

- ①宮津市こどもすくすく子育てLINE登録者、
- ②宮津市子育て支援センター「にっこりあ」利用者 に呼びかけ

回答者数 97人(女性77人、男性20人)

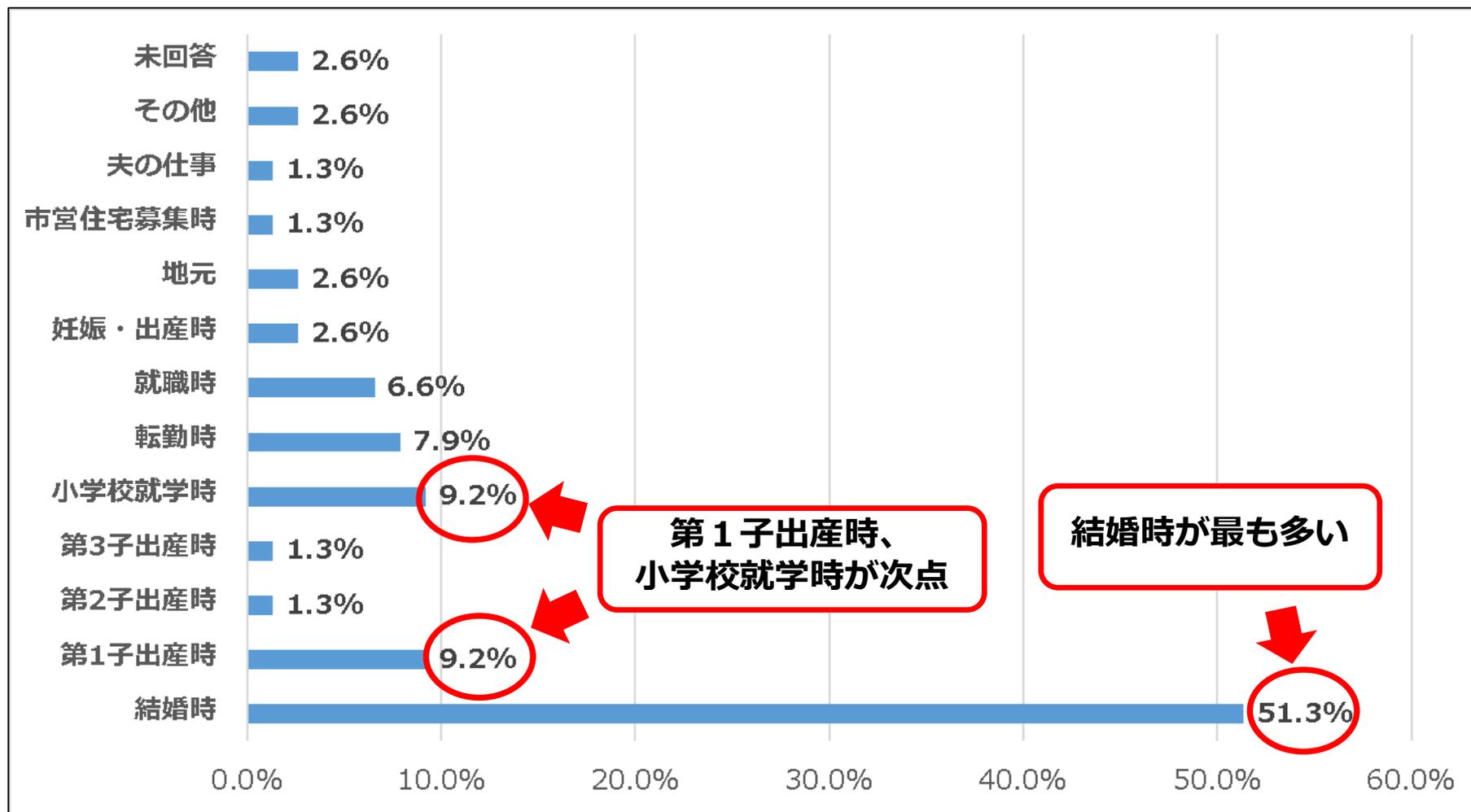
質問内容

- ・現在の地域に住むことを決めたタイミング
- ・現在の地域に住むことを決めた際に、悩んだこと
- ・現在の住居形態
- ・現在の地域に住むことに至った理由
- ・欲しい子どもの数 ※子どもの数が1人の人のみ対象
- ・第2子以降を出産される場合、現在の住まいに住み続けようと思うか
- ・若者や子育て世帯が宮津市に戻ってくるために、必要なことな何か ※市民対象
- ・地域の風土や子育て環境に関して、宮津市のポジティブなところは何か ※市民対象
- ・地域の風土や子育て環境に関して、宮津市のネガティブなところは何か ※市民対象
- ・宮津市の子育て支援(施策)で良いと感じるところは何か ※市民対象
- ・宮津市の子育て支援(施策)で良くないと感じるところは何か ※市民対象
- ・宮津市でもっとこうしたら良い(あったらいい)と思う子育て支援(施策)は何か ※市民対象
- ・お住まいの地域の子育て支援(施策)で良いと感じるところが何か。 ※市外対象
- ・お住まいの地域の生活文化や地域性などで良いと感じるところは何か ※市外対象

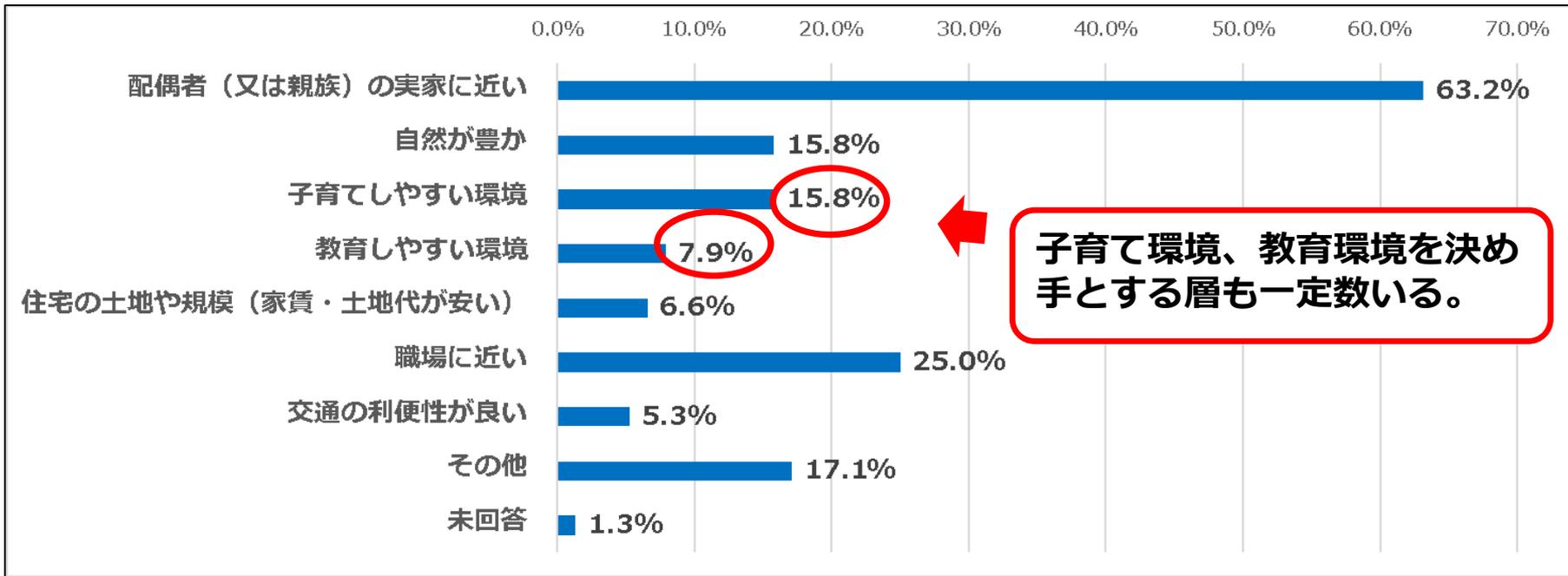


アンケート結果(一例)

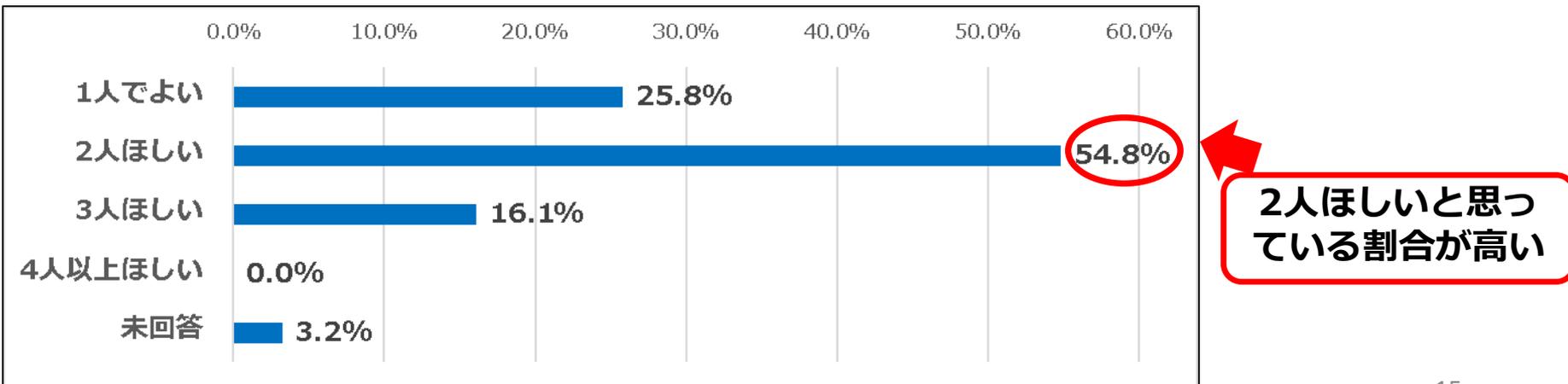
Q6.現在の地域に住むことを決められたタイミングは、次のどれですか。



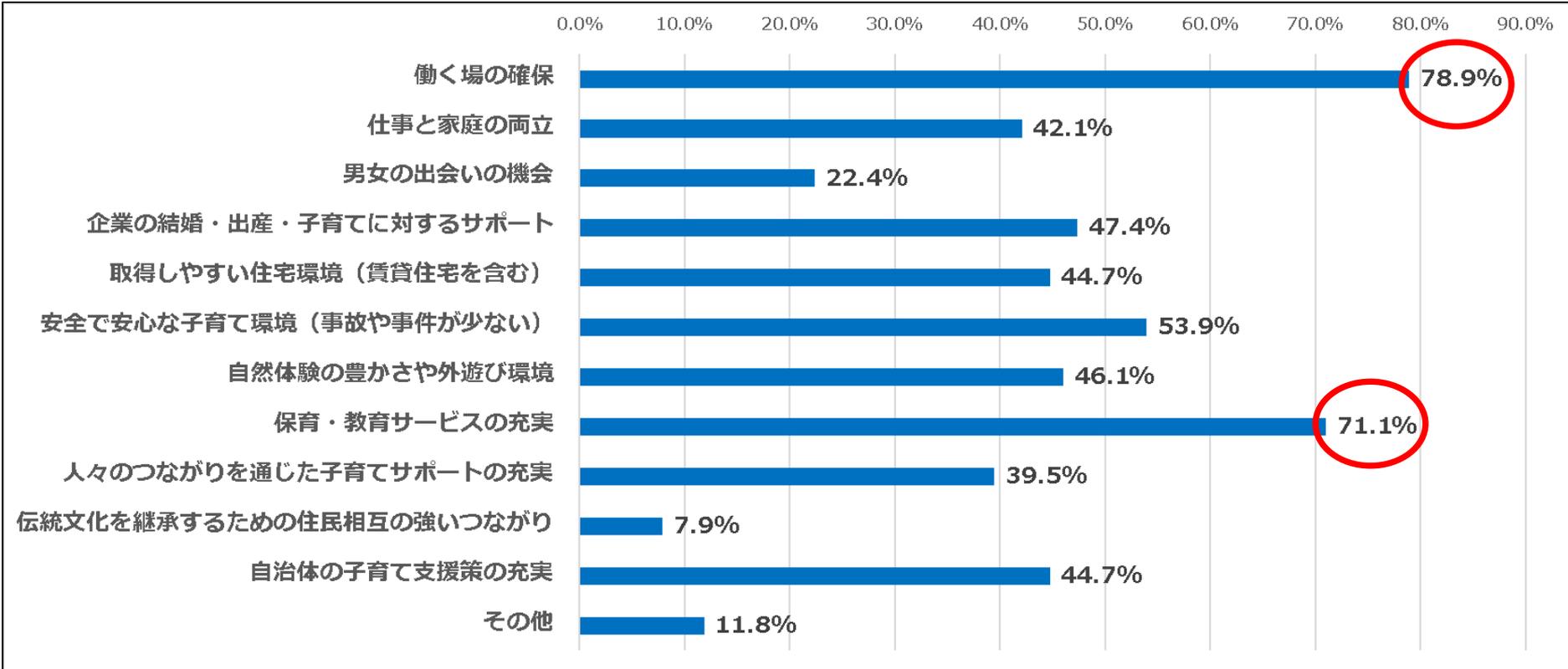
Q11.現在の地域で住むことに至った理由は何ですか。



Q13.お子様が1人（Q4で1人）と回答された方にお聞きします。お子様は何人までほしいと思われませんか。



Q17. 若者や子育て世帯に戻ってきてもらうために、必要と感ずることは何ですか。

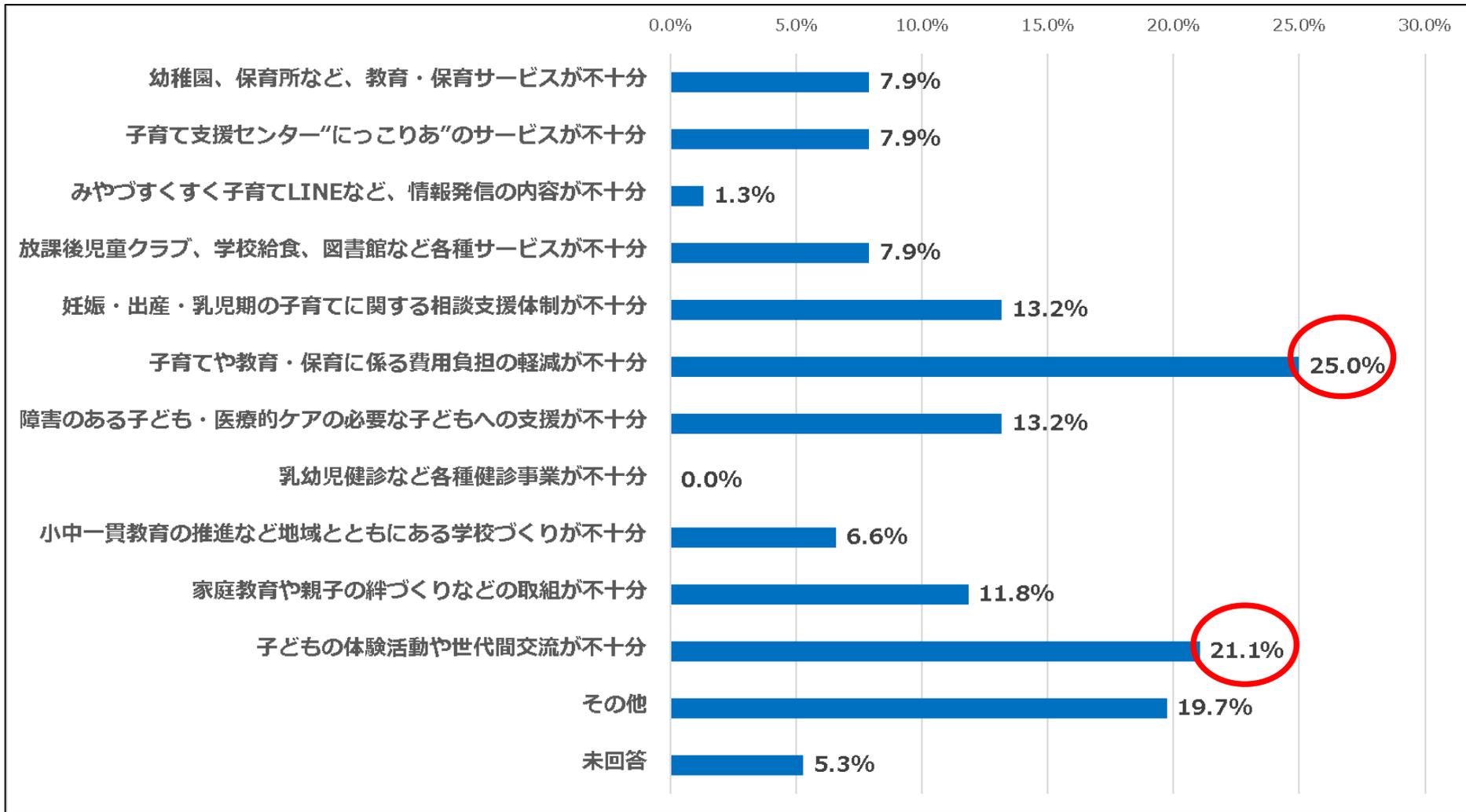


↑

- 働く場の確保
- 保育・教育サービスの充実

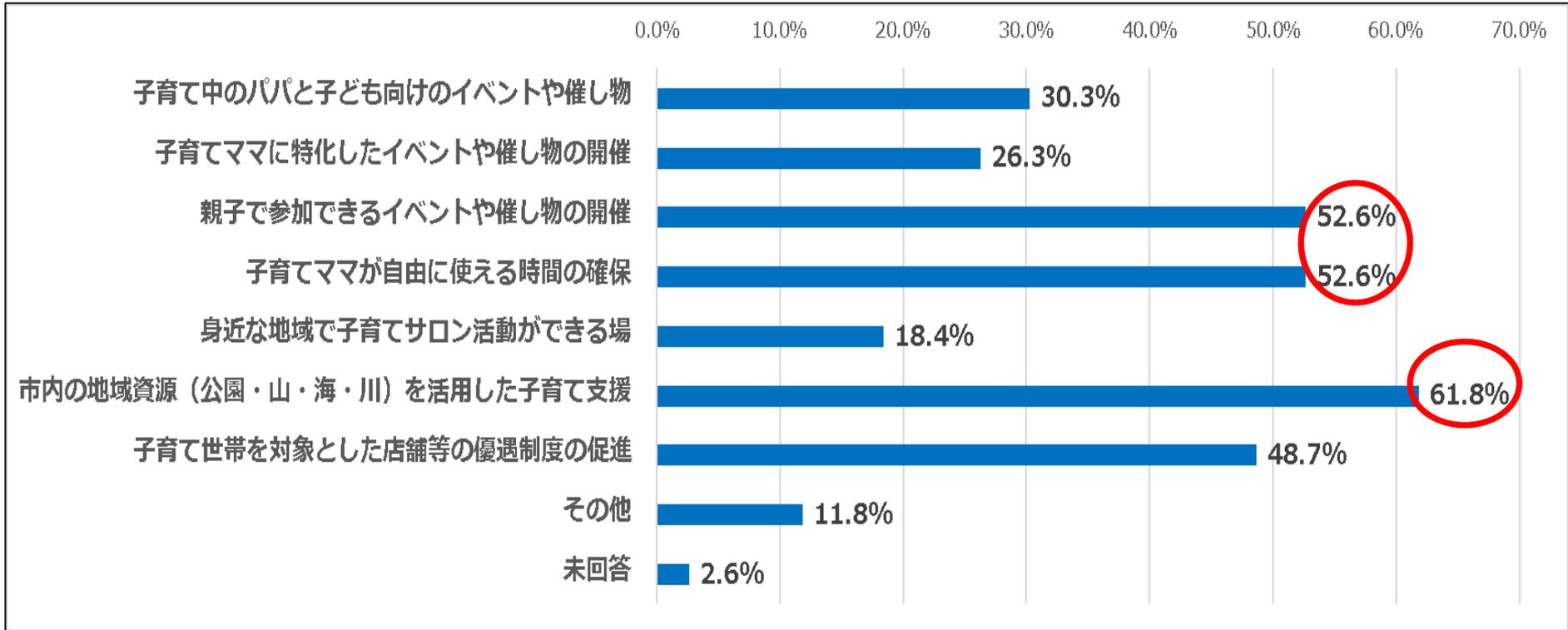
が必要と感ずている

Q26.宮津市の子育て支援（施策）で良くないと感じる所は何ですか。



- 子育てや教育・保育に係る費用負担の軽減
 - 子どもの体験活動や世代間交流
- が不十分と感じている

Q28. 宮津市でもっとこうしたら良い（あったらいいな）と思う子育て支援（施策）は何ですか。
[複数回答]



↑

- 市内の地域資源を活用した子育て支援
- 子育てママが自由に使える時間の確保

などが求められている

宮津市の少子化の要因を考える！

①宮津市の人口減少の構造

- ・宮津市に人口は、自然減少と社会減少の両方により、減少している。
- ・近年は、自然減少が大きく影響しており、**特に出生数の減少が大きく影響**

②宮津市の少子化の要因(仮説)

仮説 1

宮津市に住んでいるが、第1子、第2子の出産にハードルがある



要因の仮説を踏まえ…

取組の柱 1

希望どおり、子どもを持てるようにする！

仮説 2

結婚を契機に市外に一定数が転出する

仮説 3

若年女性が進学・就職により転出し、戻ってこない

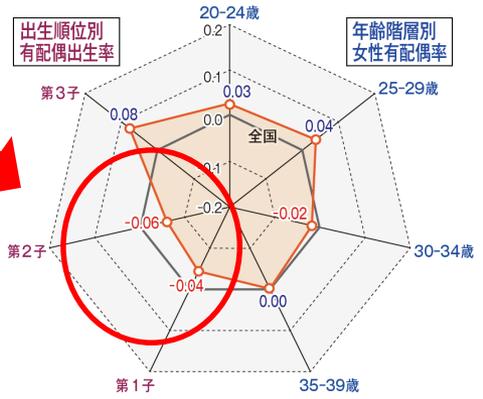


要因の仮説を踏まえ…

取組の柱 2

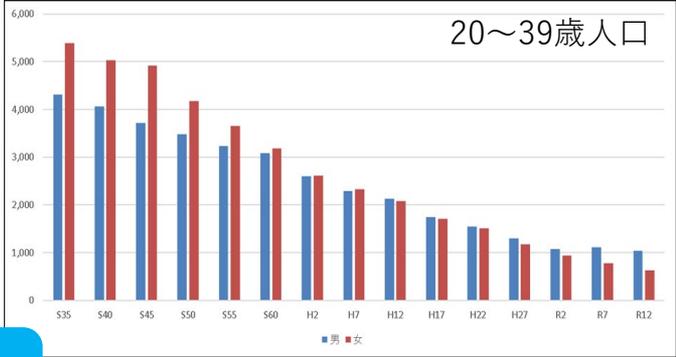
宮津市に住んでもらう、住み続けてもらおう！

出生構造レーダーチャート (2015-2018年、全国=0)



宮津市有配偶出生率

	1998-2002	2003-2007	2008-2012	2013-2017	2015-2018
年平均	72.9	78.2	78.0	73.5	68.7
第1子	30.2	33.3	30.8	31.5	29.5
第2子	26.7	27.9	27.8	24.7	22.4
第3子	12.6	12.8	15.1	12.8	12.6



取組の柱 1 希望どおり、子どもを持てるようにする！

●現状はどうなっている？

・アンケート結果から…

- ①約7割が子どもは「2人以上」ほしいと回答
- ②市の子育て支援として、「子育てや教育・保育に係る費用負担の軽減」「子どもの体験活動や世代間交流」が不十分と感じている人が多い。

・座談会・ワークショップから…

- ①子どもを預けて、自分の自由になる時間がほしい。
- ②子どもを連れて、出かけられる場所がほしい。
- ③ママ同士、地域の人達等とのつながりができる場があれば。
- ④ママが幸福感を感じる場所や時間が必要なのでは？

・統計から…

- ①近隣市町と比較して、世帯所得額が低い。



**右の視点を重視し、
施策を検討！**



取組の柱 1 希望どおり、子どもを持てるようにする！

「希望どおり、子どもを持てるようにする！」の実現に向けて…

施策の方向性	取組内容	具体の施策案(直近)
①子育てに係る費用負担の軽減	経済的負担軽減に向けた子育て世帯の就労に繋がる仕組みづくり	子連れコワーキングスペースの整備や女性のキャリアアップ支援等
②費用軽減以外の子育ての負担軽減	子育て支援体制の充実による子育ての負担感の解消	地域等と協働した、地域資源活用型の子どもの体験活動等の実施
③子育て世代の望む施策の実施		地域の子育て支援団体等のネットワーク化
		子育て当事者(パパ・ママ)による情報発信
		子育て支援センター「にっこりあ」等を活用し、子育てママの自由時間確保のための託児サービスの実施
		子連れでも行きやすいお店等を増やすため、宮津市子育て応援事業者認定制度の推進強化

取組の柱 2 宮津市に住んでもらう、住み続けてもらおう！

●現状はどうなっている？

・アンケート結果から…

- ①若年女性は、進学・就職を機に転出する人が多い。
- ②若者や子育て世帯に戻ってきてもらうために必要なものは、約8割が「働く場の確保」と回答
- ③約半数が「結婚時」に、約1割が「小学校就学時」に居住地を決めている。
- ④居住地を決める理由は、16%が「子育て環境」、8%が「教育環境」と回答

・座談会・ワークショップから…

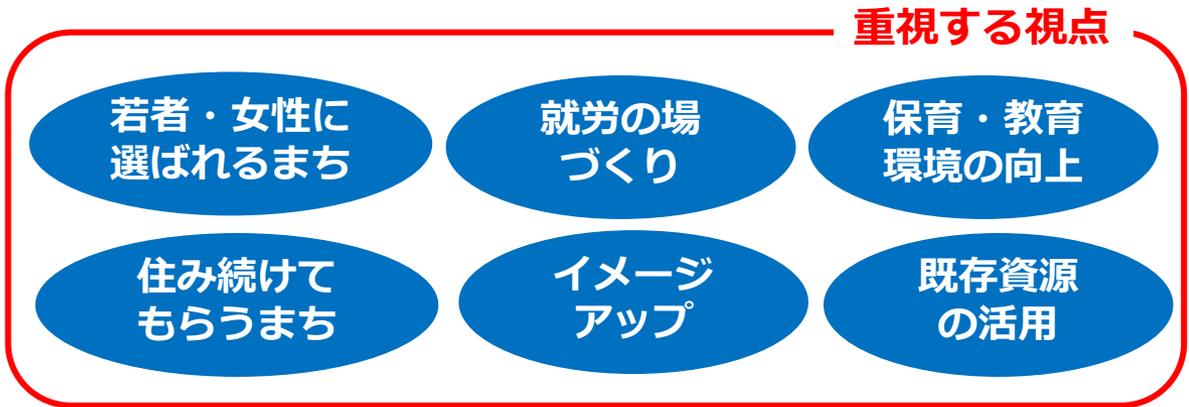
- ①宮津市は「土地が高い」ので、他市町に家を建てるという意見があった。

・統計から…

- ①男性と比べて、女性は進学等で転出後に戻ってこず、若年層では男性より女性が少ない。
- ②20～39歳は、近隣市町への転出が多い傾向
- ③近隣市町と比較して、市街地の地価が高い。



**右の視点を重視し、
施策を検討！**



取組の柱 2 宮津市に住んでもらう、住み続けてもらう！

「宮津市に住んでもらう、住み続けてもらう！」の実現に向けて…

施策の方向性	取組内容	具体の施策案(直近)
<p>①若年層(特に女性)が宮津市に帰ってくる、住み続ける。</p>	<p>若年層の希望する仕事づくり</p>	<p>市のテレワーク施設を活用した企業誘致等による若者の就労支援</p>
<p>②結婚しても、宮津市に住んでもらう。</p>	<p>結婚後の世帯の周辺自治体への流出を防ぐ。</p>	<p>新婚世帯、子育て世帯を対象に、住宅購入、引っ越し費用等の支援</p>
	<p>近隣に勤めても宮津市に住み続けて、子育てしてもらうための環境づくり</p>	<p>市の定住促進住宅「みやづ城東タウン」を活用した子育て世帯、若者向け住宅の提供</p>
	<p>子育てしやすい自治体としてのイメージづくり</p>	<p>市内就学前施設における教育・保育サービスの向上(質を向上！)</p>
		<p>宮津市全庁を挙げたPR</p>

ご清聴ありがとうございました。

10年後に向けて始動

まちから外へ、外からまちへ。

すべてが活発に行き交い、そして暮らしを豊かに高め合う。

そんな橋のようなまちを、宮津はこれから10年で目指していきます。
天橋立に負けない（はじない）くらい、魅力的でワクワクできるまちへ。

さあ、10年後の未来に向けて、

共につなごう。

宮津 という橋を。